

○菊地恵一委員長 続いて、日本維新の会の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。小野寺健委員。

○小野寺健委員 秋保かがやき支援学校に関する災害復旧について伺います。

三浦委員、松本委員と質問されておりましたので工夫して伺いたいと思います。

大変残念なのは真新しい開校直後の建物に被害が起こったことです。初期建設費、調査費、設計工事含めて八十九億円、また新たに二億円の費用がかかることです。国の負担といいますが、原資は私たち県民から納めている税金でありまして、結果使われなくてもよい税金が使われることになったということです。御当局は今回の被害、雨水の流れは新築までに想定することはできなかったのか、回避することができなかったのか、どのような所感をお持ちでしょうか伺います。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 秋保かがやき支援学校の建設においては、仙台市の基準に基づき、一時間当たりの最多降雨量を五十二ミリとして雨水排水施設を整備したところでございます。発災時の一時間当たりの降雨量は、確認できる範囲では秋保地区における過去最多雨量であったことから、今回の被害を想定し回避することは困難であったと考えておりますが、開校して数か月の学校がこのように被災してしまったことは大変残念に思っております。

○小野寺健委員 先日、秋保かがやき支援学校に伺いまして、当日勤務されていた職員さんに御説明を頂きました。一見して分かるのは、グラウンドと建物の高低差、グラウンドの雨水の流れを吸収するますの小ささ、雨水を取り込む下水道までの管の小ささです。これは設計時もう少し配慮が必要であったのではないかと思います。大雨が降ったときの想定が甘かったのではないか、雨量の想定が甘かったのではないかと思いますけれど、この点どう思われますか。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 秋保かがやき支援学校の設計・施工では、仙台市下水道排水設備設計指針に基づきまして、一時間当たりの最多降雨量を五十二ミリとして雨水排水施設を整備したところでございます。秋保地区におきましては、過去の降雨量を確認できる範囲で、被害当日の一時間の降雨量六十五ミリは過去最多であり、想定を上回る雨量であったことから、これをあらかじめ想定した排水計画を立てることは困難であったものと考えてございます。

○小野寺健委員 腑に落ちないのは、ここは以前拓桃医療療育センターがあったところ
でございます。今回新たに県が取得した土地ではなくて、昭和三十年以降県有地で地
形なども熟知されている場所ではないかというところ。そこで伺いますのは、今回
の新設に当たり、土地に形状変化がないのか、造成工事は行っていないのか、確認さ
せてください。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 秋保かがやき支援学校は、以前ありました拓桃医療療育
センター及び拓桃支援学校を解体し、もともとの土地の形状を活用して整備したもので
ございまして、土地の形状変化を伴う造成工事は行っていないところでございます。

○小野寺健委員 そこで私、拓桃医療療育センターが解体されるときの航空写真、それ
から造成というか全部なくなって更地になったときの航空写真、それから地形図等を見
ました。拓桃医療療育センターの前の建物は、高低差、際のところに沿って建物がきち
んと建っている。そして今のグラウンドのところですけれども、そこに緑の樹木が植え
てある。そういったところも踏まえて考えると、以前、建物を建てたときは県の直営で
建てたと思うのですが、県職員の先人の皆さんが、そこはある程度水は来るのかもしれ
ないということをあらかじめ想定しながら、設計したり建物を建てられたのではない
かというふうに想定されるんですね。今回見られると分かりますけれども、明らかに対
策がとられていないというか、雨水の対策が希薄だったのではないかと思います。改め
て答弁お願いします。

○千葉衛土木部長 この学校は土木部のほうで執行委任を受けて実施してございますの
で、私のほうから御回答させていただきます。先ほど来教育長から申し上げますと
おり、建物の排水設備の設計に当たっては仙台市の基準を用いてやっております。ま
ず建物の設計に当たりまして、これまで背後の山林ですとか、高台の部分ですか、そ
ういったところの排水状況をきちんと確認いたしました。既存の排水施設がない部分、
受けられない部分は、建物の今回設計するエリア内も含めて雨量を算定して、きちんと
排水の施設の整備を進めているところでございます。そういった意味で、今回それを超
える雨だったと、それも短時間に集中的に降ったということもあって、こうした被害が
生じたわけでございますが、先ほど来教育長が申し上げますとおり、今回の被災を
受け再度災害防止に向けまして、しっかりと教育庁と一緒にどういった対策が必

要か検討してまいりたいと思っております。

○小野寺健委員 災害、こと大雨に関しては、想定外ということはなくしていかなければなりません。また同じような大雨が降るかもしれません。災害復旧費は基本原状復帰が基本なことは承知しておりますが、ここは学校ですので原状復帰だけでは問題は解決しないと思います。二度とこのようなことが起こらないように、ますの増設、下水道接続の改善、対策、対応を早急に求めるものですが、この点を伺います。

○佐藤靖彦教育委員会教育長 今回の大雨の被害を受けまして、再度災害の防止対策の検討を進めているところでございます。現在想定している改良対策は、側溝の追加整備による敷地内排水機能の強化や建物周囲に浸水対策を講じることなどではありますが、その具体については今後の改良対策設計の中で検討を行うこととしており、災害等の発生を十分に想定した上で被害の未然防止を念頭に置いて、今回の大雨をしっかりと踏まえまして、更なる対策について検討してまいりたいと考えております。県教育委員会としては、災害復旧工事と並行して改良対策工事の速やかな着手に努め、来年度中の早期の完工を目指して努力してまいりたいと考えております。

○小野寺健委員 ぜひお願いします。今、土のうで何とかなっている問題なので、これは早急に解決しなければいけない対応だと思います。

最後に今後の学校などの公共施設の建設時には、今回のことを教訓にして、大雨・雨量のことを考えて、土地の形状なども考慮しながら計画・設計・施工を求めていくものです。この点について責任ある答弁を頂きたいと思えます。

○村井嘉浩知事 公共施設の建設に際しましては、土地の形状なども考慮いたしまして、災害等の発生を十分想定した上で、被害の未然防止を念頭に置いて、計画・設計・施工を行っていく、当然の答弁だというふうに思います。県としては基本方針を掲げておりまして、三つあるのですが、一つは、安全・安心の確保ということでございます。二つ目は、施設の維持管理費用の低減・平準化、三つ目は、施設総量の適正化ということで、造り過ぎないというようなこと、これを掲げて公共施設を建設しております。今回の件につきましては、私も出来上がったばかりの学校が被災をしたということで、反省すべきはしっかり反省すべきだというふうに思っております。これは教育委員会だけの問題ではなくて、知事部局としても責任を感じながら、今後こういうことのないようにし

つかりと努めてまいりたいと考えております。

○小野寺健委員 教育長も現地を御覧になつていふと思ひます。土木部長さんも御覧になつていふと思ひます。私も航空写真を手に入れて、この地形にこの凶面でそしてこの建物が建つて、災害つて大丈夫なのかなという若干疑問視したところも出てきたところがあつたのです。高低差のところがやはり大きいので、そういつたところ、素人の私でも分かるところがありますので、もちろんプロフェッショナルの皆さんですから、そういつたところはきちんと思抜けるはずですので、今後そういつた被害が起らないように、今後の施設に關してはぜひ慎重に検討を進めていただきたいと思います。以上で終わります。